

# ムスリム旅行者受け入れセミナー

平成28年11月17日 13:30-  
場所：新宿TKP

## 1.ムスリム旅行者受入の基礎知識

### 四辻 英明

(NPO法人日本ハラール協会 理事)



NPO法人日本ハラール協会理事として、日本におけるムスリム対応の現状について講義頂いた。

「日本が「ムスリムインバウンド」を推進するために重要なのは礼拝と食事への配慮である。近隣国に於いてはすでに経済政策として進められており、国内での地域間の競争以前に世界から日本が選ばれるかどうかのマーケティング課題として捉えるべき状況を呈しつつある。」

本セミナーでは、イスラームの信仰に配慮したサービスを行うための基礎知識を中心に語ってもらったが、同時にベジタリアンやアレルギーなど食に制限のある顧客への対応も考えさせられるものとなった。

「日本来訪の際、懸念するのは礼拝と食事。それを少しでも払拭するために情報発信が重要となる。

礼拝に関しては、都内のデパートが礼拝場所を作るなど、モスク以外の礼拝可能な場所が増えつつあり、そのような環境が整ってくればより多くのムスリムが訪れやすくなる。ホテルなども部屋にメッカの方向を示す「キブラ」を付けているところも出てきたが、方角が分かれば個々のムスリムがスマートフォンなどのアプリやコンパスで判断できる。

食事に関しては「ハラール認証」などを掲げる飲食店もあるが、英語のメニューや原材料表示などの工夫と説明があるだけでもムスリムが選択しやすくなる。特にムスリム専用のメニューなどを作る必要はないし、国によって食文化は違うので「ハラール」だからと言ってムスリムがなんでも食べるわけではない。

これまで強みとして続けてきた自身のサービスをいかにムスリムにも提供できるか、その為にもイスラームについての知識は重要だ」

## 2.ムスリム留学生によるムスリム旅行者の視点 「旅行中に困った、戸惑ったこと」

ヌルア フィファ (マレーシア 2014~在日)

ムスリム留学生の立場で日本で困ったことを具体的な体験談としてレクチャーした。

「礼拝場所などは公園などを代替するが、声をかけられたり写真を撮られることがある。大学の研修先で温泉が付いていて、日本の文化を体験したいので楽しんでいるが、着衣での入浴など対策が認められていないので、人前で裸になれないムスリムである自分たちは旅行代金は同じなのに結局入れない」などの苦勞を語った。

